万引被害額の減少傾向定着化へ向けて

特定非営利活動法人 全国万引犯罪防止機構理事長　竹花　豊

新年明けましておめでとうございます。

平素は当万防機構にご理解を賜り心より感謝申し上げます。

「万引をしない　させない　見逃さない」のキャッチフレーズのもと、各地域での万引防止対策の組織的な取組みが活発化し、「万引の起きにくい社会づくり」へ向けて本格的な展開がなされつつあります。

その活動の一翼を担ってきた特定非営利活動法人全国万引犯罪防止機構（略称　万防機構）は、本年6月に設立11年目を迎えます。

この間、会員の皆様をはじめ、関係省庁、関連団体の皆様のご支援とご協力をいただきましたこと、厚く御礼申し上げます。

最近の万引犯罪の状況ですが、わが国の刑法犯認知件数がここ10年で半減する中で、万引犯罪の減少傾向は弱く全刑法犯認知件数の約10％を占めるに至り、警察の検挙人員の3人に1人が万引犯です。またその特性としても高齢者の検挙件数が少年を上回る社会的問題化や組織的万引で高額被害事案が多発、さらにはネットでの盗品売買の急増などにより、社会の安全安心の土台を脅かす大きなひとかたまりの社会的事象になっております。

この間、本機構は万引に関する調査・研究、提言活動を中心に、精いっぱいの取り組みを進めてきました。今後は、取り組みに向けての目標については、この問題をいつまでも現状にとどまらせることなく、これを解決するレールに乗せることにより、5年後を目途に、万引被害額の減少傾向の定着化を図ることとします。

さらに、取り組みを進める上で、万引に関わる社会各層の役割をそれぞれ明確にすることに努力するとともに、各層が連携をさらに充実し、それぞれの役割をより十充実するように働きかけていきます。

これらの取り組みを進めるためには、これまでの調査・研究、提言活動をさらに充実するとともに、これに加え、自ら具体的な万引防止活動の担い手となる、いわば万引防止対策の実行体に脱皮していくことが必要であると考えております。そのためには、体制の強化、財政の充実等の課題を解決する必要がありますが、できる範囲で逐次その具体的活動を推進していきたいタイトと考えます。

つまり、当機構は、今後の万引問題の情報の集積・分析・発信の拠点となるとともに、自ら必要な具体的対策の実施部門となることを目指します。そして、これを通じて、万引問題の解決に見通しを必ず付けるとの決意です。このようなコンセプトに基づき、以下の点を重視して取り組みを進めていきます。

（1）業種別や店舗タイプ別の万引被害、万引犯人等に関する実態把握を充実する。とりわけ、小売業界ごとの特性をも明らかにすることに努める。

（2）被害者である小売業者の自衛策の強化方策のサポート活動を充実、強化する。従業員の研修制度、万引されにくい店舗づくりのアドバイス、万引防止に効果的なシステムの導入拡大に努力する。

（3）業種別・地域別の関係小売店舗間での万引被害、犯行状況等に関する情報共有を進める仕組みを確立、普及する。

（4）警察との連携強化を新たな観点で推進する。警察の対応能力に配慮して、万引被害の分析、重要な万引犯の動きに関する情報、万引常習者の情報等の提供をシステム的に行う仕組みづくりを進める。

（5）万引被害品の処分先に関わる情報の収集・分析を強化し、また、を通じた処分に歯止めをかける取り組みを強化する。

（6）地域社会の万引防止の取り組みの強化に協力する。青少年の非行防止、高齢者の保護等の地域社会のサポートプログラムや店舗巡回活動などの万引防止活動との連動を目指す。

（7）万引の実態等について効果的な広報に努め、万引問題への理解を広げる。

（8）万引に苦しむ諸外国の小売業者等との連携を深め、各国における万引問題の現状、その防止対策の内容や課題等について情報・意見の交換を積極的に進める。

万引問題は、被害者はもちろん被疑者・そのご家族を含め多くの人を不幸にし、社会全体の質の低下を招く恐れのある大きな問題です。企業は営業活動を行う上で、犯罪が起こる機会を与えないように配慮すること、また、来客や従業員の生命、身体等の安全を守ることが社会的に求められます。

これを実現するのは決してやさしい問題ではなく、各企業の経営陣の的確な指示のもと、企業が一体となって、その社会的責任として対処することが必要不可欠であると思います。

当機構は、万引問題の解決に見通しを必ず付ける、という決意の基、所轄官庁はじめ関連諸団体のご支援をいただきながら活動して参ります。引き続きご支援ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。